「吃音支援ガイド」保護者用

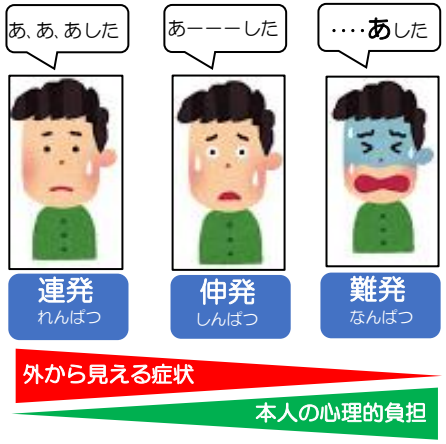
吃音の正しい理解と支援のために

本ガイドは吃音の理解啓発と、吃音のある児童たちが、自分の吃音に向き合い、安心して学校生活が送れるように、そして、我が子の吃音に悩む保護者の方の吃音理解と、支援のための入り口として活用してほしいという想いで作成しました。ご家庭でもお子さんと一緒に読み合わせして下さい。

吃音とは？　自分の思うようにスムーズに話せないこと

吃音は「どもり」や「どもること」と言われることもあります

吃音について



発症状況や原因

- 2～4歳の20人に1人（5%）の割合で発症するが、3年以内に男児の6割、女児の8割は自然回復（自然治癒）する。男女比では4：1で男子が多い。
- 思春期・成人になっても100人に1人（1%）は吃音がある。
- 吃音の割合は、国や文化、人種が異なっても、ほぼ同じ割合で存在する。
- 原因は特定されておらず、治療法もまだ確立されていない。

吃音の特徴

- 歌や複数の同時朗読などではどもらない。
- 症状には目立つ時期、目立たない時期の「波」がある。
- 症状は話す相手や場面によって異なる。
- 吃音の起りやすい音や場面がある。
- 連発から伸発、難発へと移行する。
- 話す前にどもることを予期して、不安を感じたりする（予期不安）。
- 吃音を気にしないで話す状態から、吃音を隠したりする状態へ進展する。

吃音を目立たなくする工夫・隠す工夫

- 「あのー」「えっと」を使う（挿入）
- 言いやすい前置きをつける　（助走）
- 言葉の順序を入れ替える（置き換え）
- どもらない言葉を選ぶ　（言い換え）
- 膝を叩く、腕を振るなど（随伴症状）
- すべてを言わずだまる　（中止）
- しゃべる場面から逃げる　（回避）

回避を頻繁に行うと、社交不安障害に繋がる恐れが高くなる。

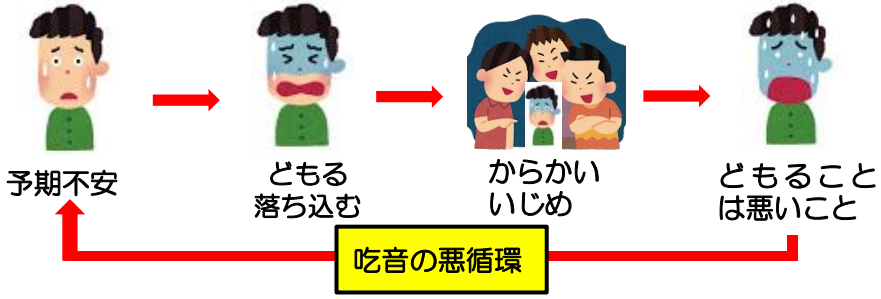
◎吃音の起こりやすい場面

①長く話す
②聞き手の数が増える
③苦手な言葉がある

学校では・・
朗読　発表　自己紹介
号令　九九　など
言い換えが出来ない言葉を使う場面

「どもること＝悪い」が引き起こす悪循環

当事者にとって一番辛いことは外見上の吃音ではない
「話す前の予期不安」「どもった後の落ち込み」



周りの吃音についての正しい理解
適切な関わり方・支持的風土が大切

どもること＝悪い
周囲の反応が意識させる

周囲の関わりが適切であれば、本人の吃音に対する悩みは軽くなります

「落ち着いて～ ＝ ×」「ゆっくり話して～ ＝ ×」「早く言って ＝ ×」

吃音のある子どもの支援充実に向けて

吃音についてもっとしりたい

【 おすすめの書籍 】
『 吃音のことがよく分かる本 』
（菊池良和：講談社）
『 子どもの吃音サポートガイド 』
（小林宏明：合同出版）
『 吃音ワークブック 』
（伊藤伸二：解放出版社）

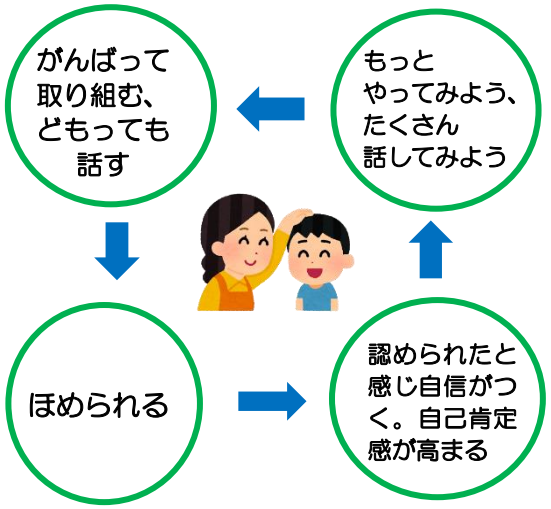
【 おすすめのHP 】
『 吃音ポータルサイト 』
（金沢大学　小林宏明のHP）
『 日本吃音臨床研究会 』
（伊藤伸二のHP）
『 特別支援教育図書　学苑社 』
（無料でダウンロードできる資料有り）

家庭でも吃音をオープンに！

話しづらさについて「親が分かってくれている」と子どもが思えることは安心感への第一歩です。折にふれ、何度も子どもと吃音の話しをしましょう。子どもと吃音の話しをすることで、症状が重くなることはありません。「本人に吃音を意識させないほうがいい」というのは間違いで、そうするとかえって悩みを一人で抱え込ませてしまいます。子どもと一緒に吃音に対する正しい理解を深めていきましょう！

ほめる機会を増やして自信を育てよう（自己肯定感を育てる）

ほめられれば自信につながり、自分を肯定的にとらえることができるようになります。話し方にかかわらず、話したいという気持ちを素直に表現できるようになっていきます。



話し方そのものをほめてもいい？

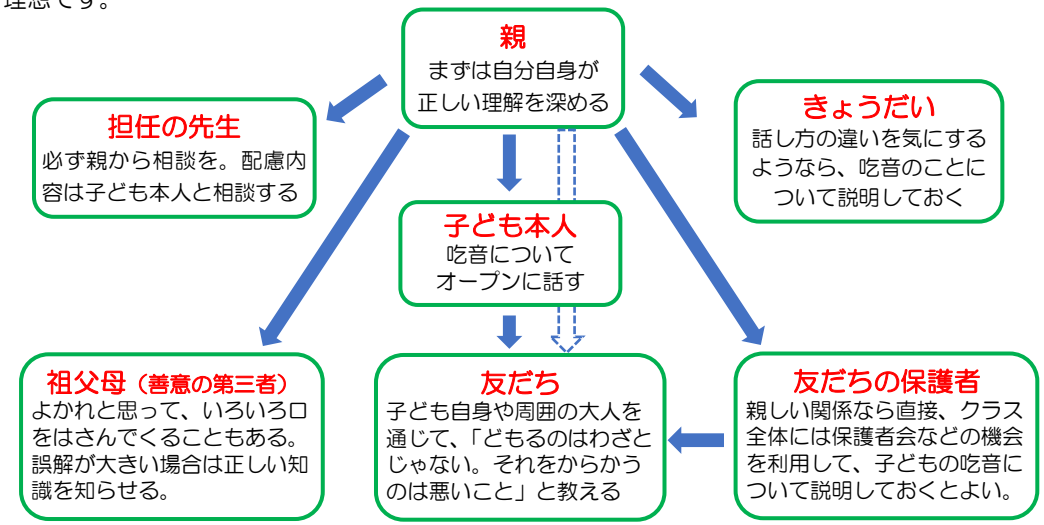
話し方をほめるのは危険な面もあります。流暢に話せたことだけをほめられていると、「なめらか＝よいこと」「どもる＝悪いこと」という思いをもつこともあるからです。

「ほめどころ」をみつける、つくりだす

- 話しの内容のおもしろさ
- 子どもが得意なこと
- お手伝いをさせる　　など

理解を広げよう（理解啓発）

吃音には誤解がつきものであり、保護者の方も理解を広げていくことが必要です。親だけでなく子どもを取り巻くすべての聞き手が「どもってもいい」という思いを共有できるようになることが理想です。



子どもの吃音の状態は？

子どもの吃音の状態を把握しましょう。吃音で困っていることや、苦手な言葉・場面、授業や日直の時に望む配慮など、子どもと一緒に話して確認しましょう。

吃音でこまっていること

- 話す前は不安？
- よくどもる言葉がある？
- どんな時によくどもる？
- 自己紹介は苦手？
- からかわれたりしない？

子どもの困り感や不安な気持ちを把握しましょう。

授業のときは？

- 発表はどのようにすると安心？
- 音読の時は？
- 当てられても大丈夫？
- サインをきめる？

安心して授業が受けられるように、授業の配慮を担任の先生に伝えましょう。

日直のときは？

- 号令を言うのは不安？
- 朝の会や帰りの会の司会は心配？

号令や司会などは、言い換えが出来ないこともあるので、仕事内容なども確認しましょう。

先生や他関係機関との連携

先生との連携

・担任の先生に対しては、学習の場で起こりうる吃音ゆえの問題について適切な対応を求めていく必要があります。吃音に対する正確な知識をすべての先生が持っているわけではないので、保護者からの働きかけが必要なこともあります。

- からかいへの対応
- 授業や日直について
- 苦手な場面への対応

具体的な配慮内容書いた書面を用意しておきましょう。

他関係機関との連携

『おきなわ吃音研究会』

- 沖縄県の言語聴覚士が始めた団体です。地域での吃音理解を深め吃音と共に生きる力を大事にしています。
- 「吃音親子キャンプ」などを主催し、吃音の理解啓発にも努めています。

○吃音親子キャンプの様子もHPでみることができます。

〈参考文献〉・菊池良和　2015　『吃音のことがよく分かる本』　講談社
・菊池良和　2012　『エビデンスに基づいた吃音支援入門』　学苑社
〈参考WEBサイト〉・『きつおん親子カフェ』・『NISE学びラボ　言語障害教育「言語障害とその教育Ⅱ」』・『NPO法人　全国言友会連絡協議会』

お問い合わせ
shashikiyasunari@gmail.com
謝敷恭成